

## 第 2 回

# 大橋川改修事業に係る環境モニタリング協議会

# コアマモ、ヨシ群落の環境保全措置

平成 2 2 年 1 1 月 1 7 日

# 大橋川改修の整備手順について

## ■整備順序の考え方

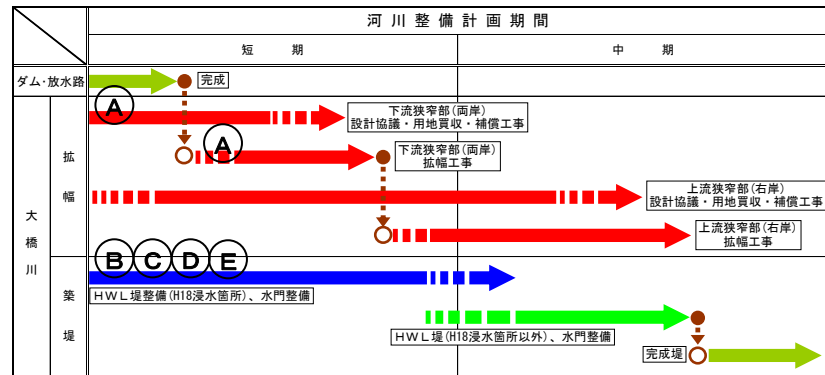
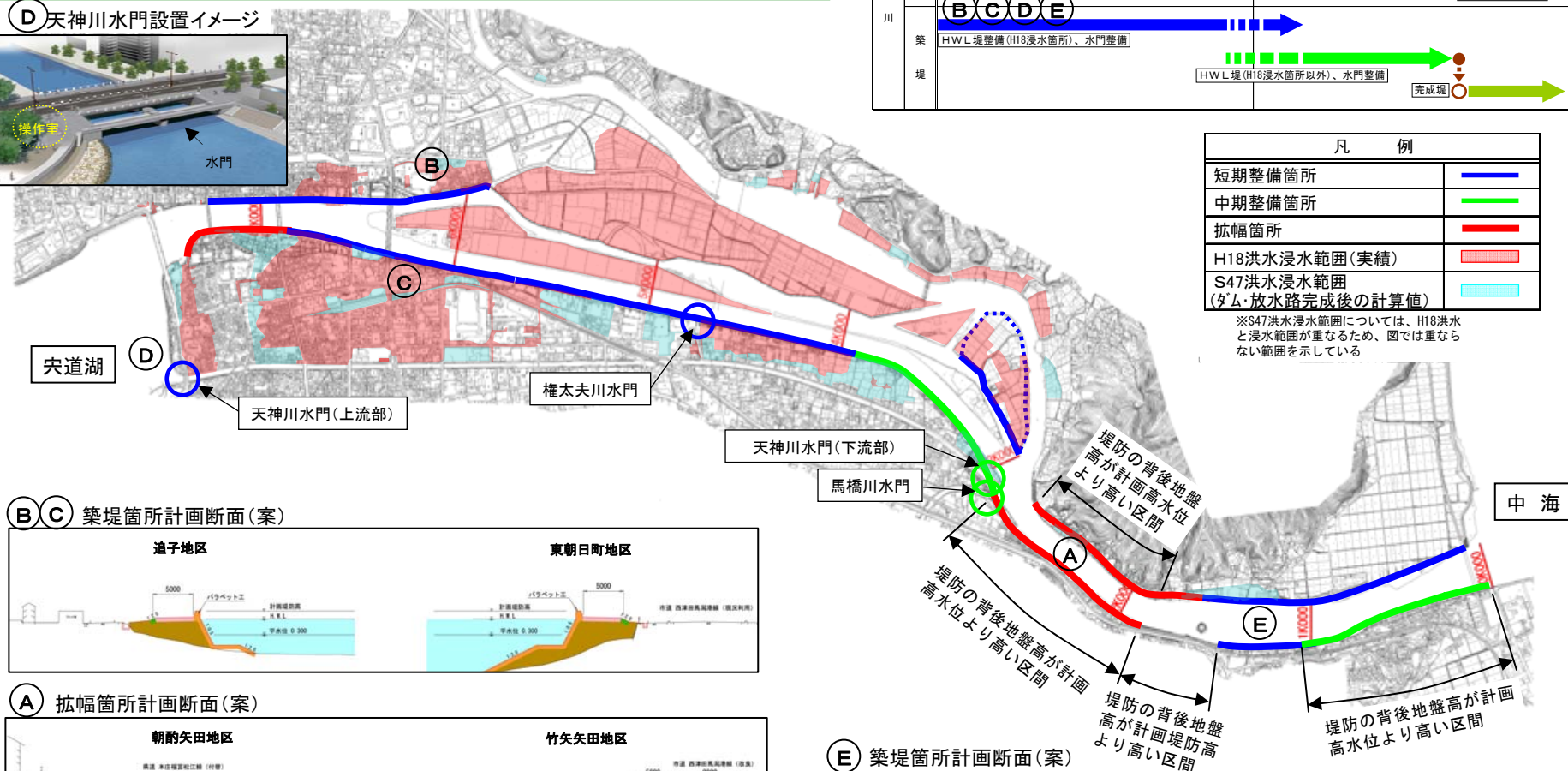
### ①狭窄部の拡幅を最優先

- ・ 宍道湖を含め全川にわたって水位低減効果が期待できる狭窄部の拡幅（下流→上流の順）を実施
- ・ 松江大橋、新大橋の取り扱いについては、関連事業として施設管理者等と調整

### ②堤防の整備

- ・ 堤防の整備は段階施工とし、計画高水位までの土堤による堤防高確保を先行して実施し、その後、計画堤防高まで堤防の整備を実施
- ・ 計画高水位までの堤防の整備にあたっては、水害リスクの高い箇所（平成18年7月洪水浸水実績箇所）等を優先的に実施

### ④天神川水門設置イメージ



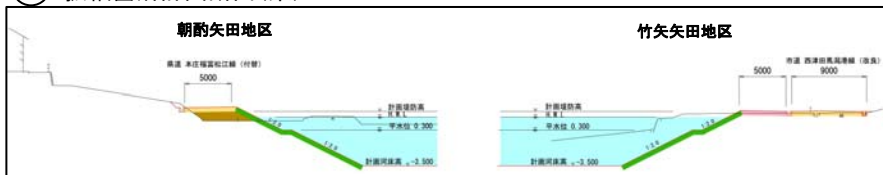
凡 例	
短期整備箇所	■
中期整備箇所	■
拡幅箇所	■
H18洪水浸水範囲(実績)	■
S47洪水浸水範囲(ダム・放水路完成後の計算値)	■

※S47洪水浸水範囲については、H18洪水と浸水範囲が重なるため、図では重ならない範囲を示している

### ②③ 築堤箇所計画断面(案)



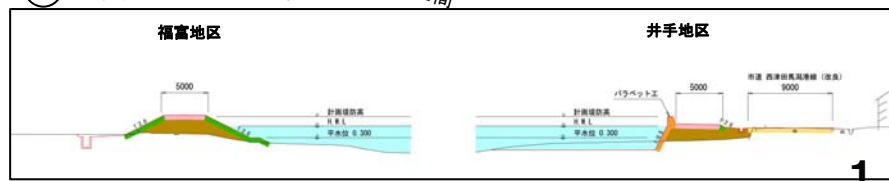
### ① 拡幅箇所計画断面(案)



※護岸の形状、掘削の形状、盛土の形状は、今後実施する詳細な設計協議を踏まえ確定する  
 ※堤防の上面が道路として利用される場合には、段階的に堤防の整備を実施せず、計画堤防高まで堤防の整備を実施する場合があります

※支川の処理については、支川管理者と別途調整

### ⑤ 築堤箇所計画断面(案)

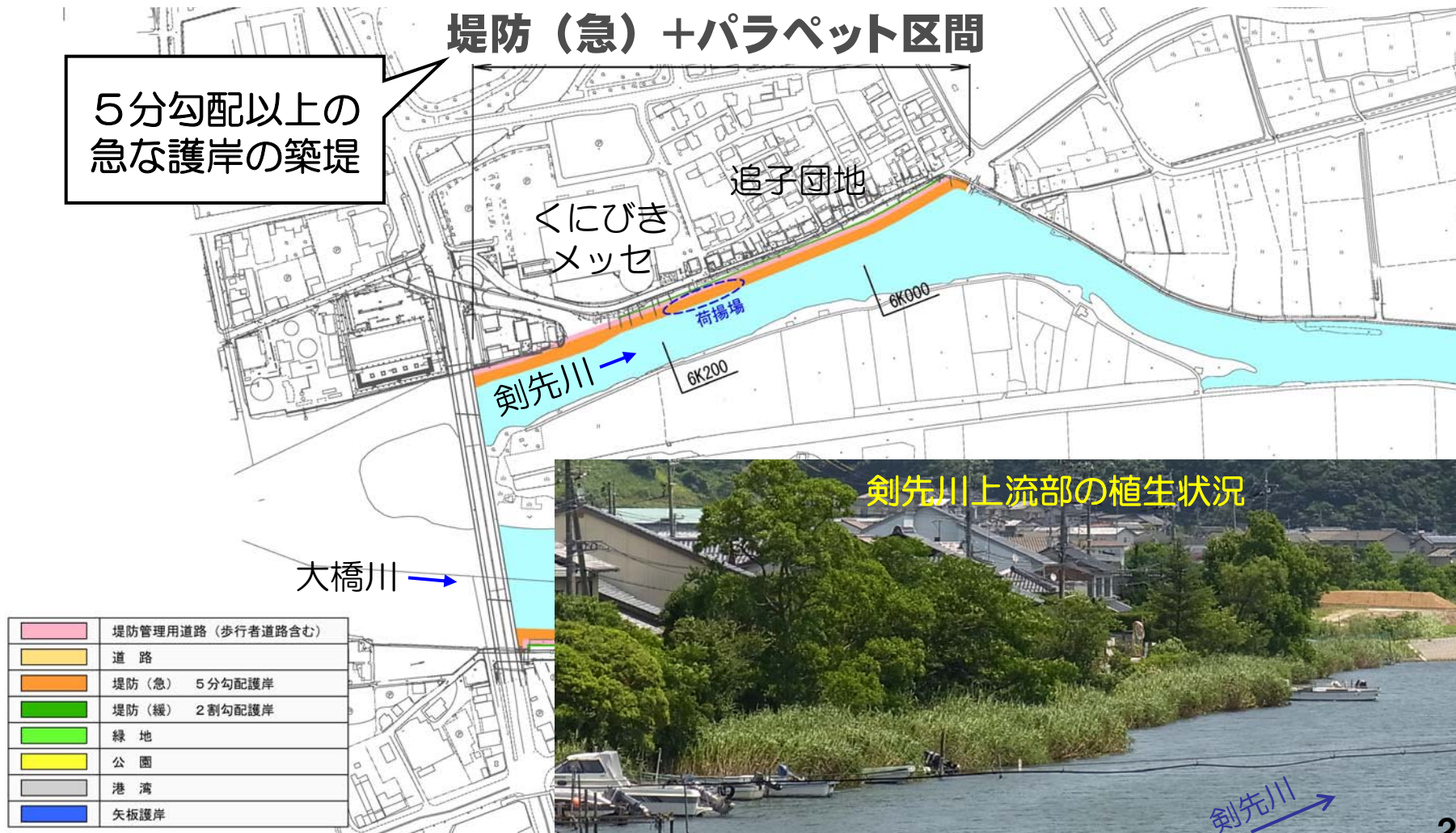


# 剣先川上流部の計画

- ◆ 河岸部の整備箇所となる剣先川上流部で**環境保全措置**を実施する。
- ◆ 剣先川の上流部の植生はヨシ帯であり、平成18年度に実施した植生調査では、コアマモはみられなかった。 → **保全対象種はヨシ群落**

## 堤防（急）+パラペット区間

5分勾配以上の急な護岸の築堤



剣先川上流部の植生状況

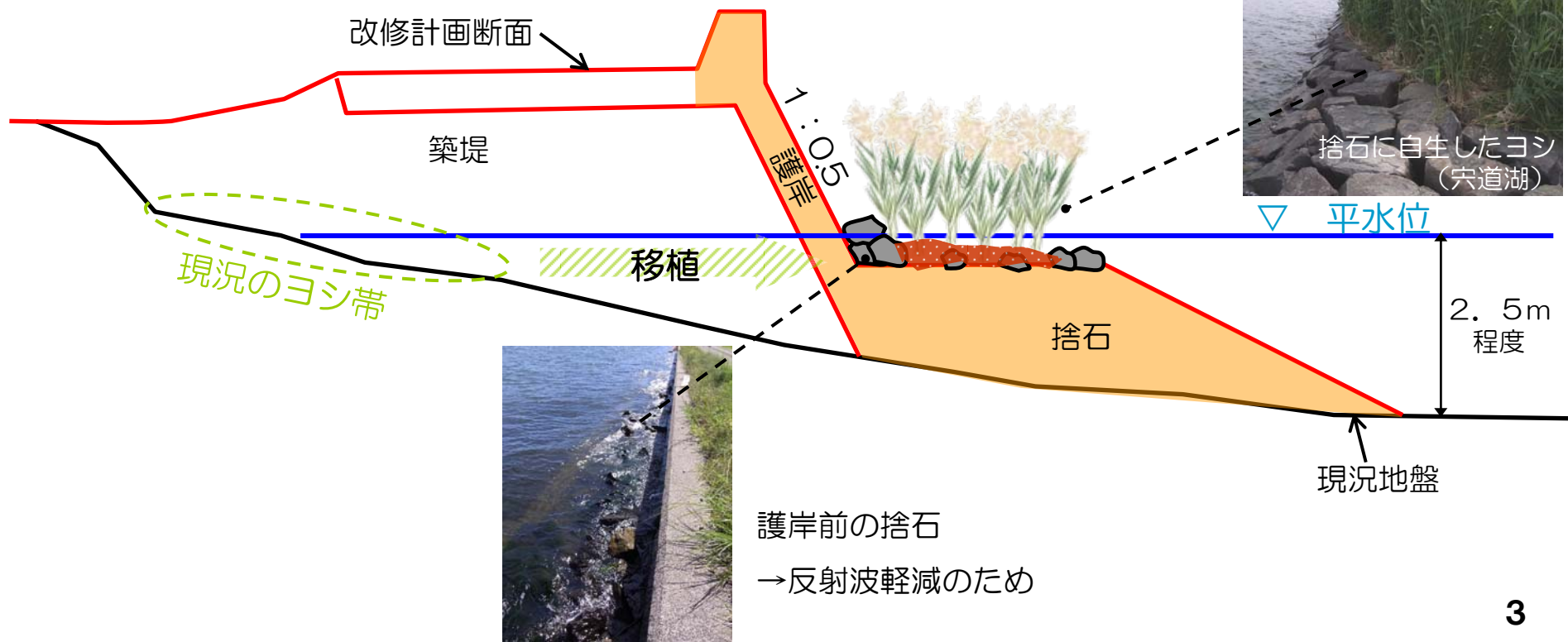
剣先川



# 剣先川上流部の環境保全措置(案)

## 5分護岸における環境への配慮事項

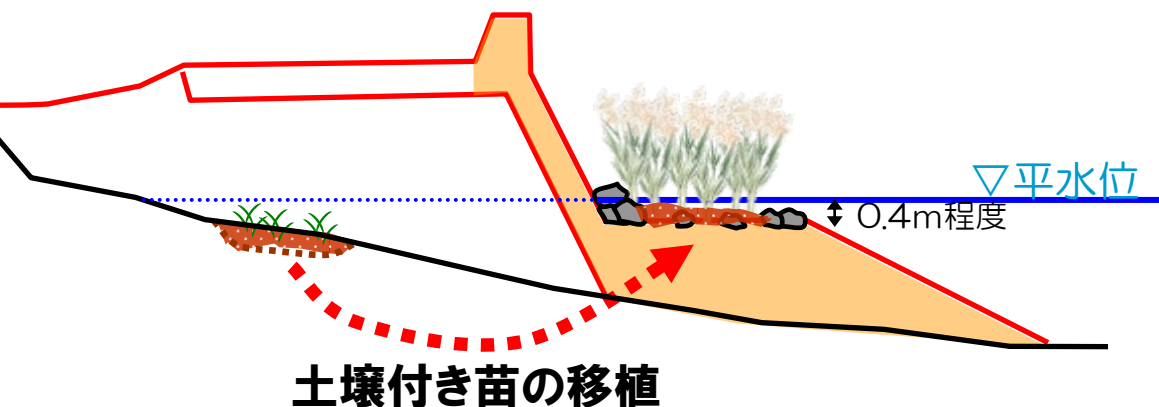
- ◆護岸部が直線的で表面も平坦な形状となる。  
→捨石部で縦断的・横断的に変化をつける。
- ◆剣先川上流部の護岸は5分勾配のブロック等となる予定である。  
→船舶や波浪の反射波を軽減するため水面付近に石を置く。  
→捨石の天端部分にヨシを植栽する。→環境保全措置



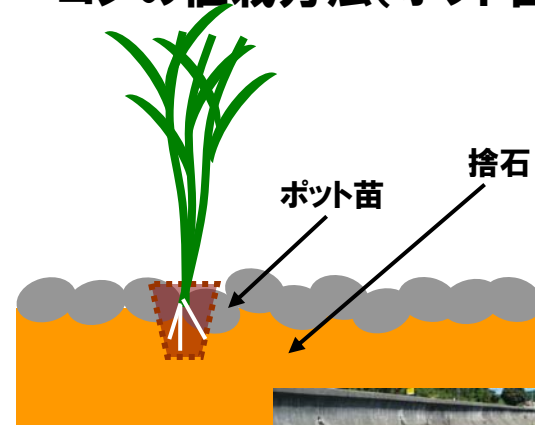
# 剣先川上流部の環境保全措置(案)

## ヨシの復元・植栽方法(案)

- ◆捨石上部の平常時の水深は40cm(天端高をHP-0.1m)程度に設定する。
- ◆ヨシの植栽はポット苗または土壌付き苗を移植することにより行う。



### ヨシの植栽方法(ポット苗)

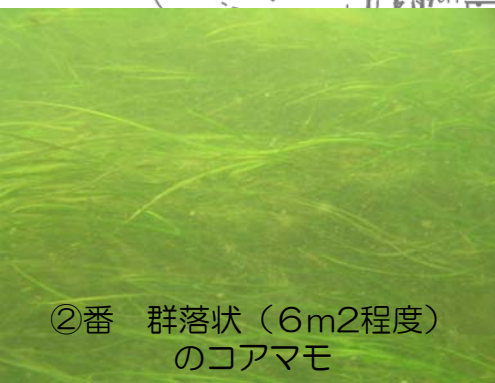


### 突道湖西岸の事例(園地区)



# コアマモの調査

- ◆ 剣先川上流部でコアマモ調査をH22年7月30日に実施した。
- ヨシ帯の前面などの15箇所でコアマモを確認したが、ほとんどが小規模なパッチ状のものであった。
- 当該箇所では、ヨシを対象とした保全措置を実施すること、コアマモがパッチ状であったことから、これを移植試験に用いるものとする。



②番 群落状 (6m<sup>2</sup>程度) のコアマモ



⑥番 パッチ状のコアマモ (シオグサの下、0.09m<sup>2</sup>)

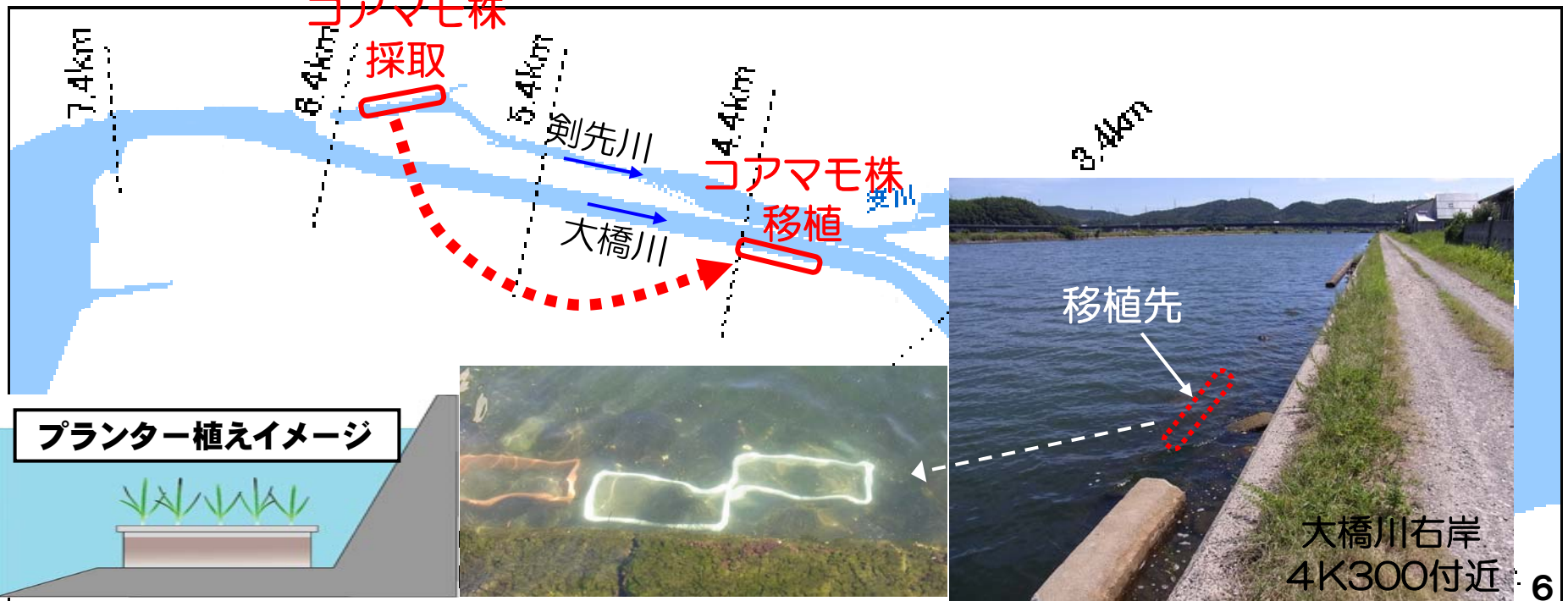


⑩番 パッチ状のコアマモ (他の水草に混じる、0.09m<sup>2</sup>) 5



# コアマモの移植試験

◆ 剣先川上流部でコアマモ株を採取し、平成22年8月29日に大橋川4K300付近で移植試験を実施した。



# コアマモの仮移植試験

◆ 施工工程や施工時期の関係で、移植するコアマモを仮置きしておくことが必要な場合がある。

→ 大橋川に近い場所でコアマモ群落を仮置きする場所を選定する。

→ 仮移植場所で、コアマモを一次待避させる、または増やす。

◆ 大橋川に近い中海内でコアマモの仮移植の候補地として、

→ ① 揖屋干拓の承水路、② 下意東の浅場造成地、③ 北部承水路 がある。



大橋川に近い ① 揖屋干拓の承水路で仮移植試験を実施



仮移植イメージ

土壌ごと採取したコアマモを植え付ける

